

□頭③

調剤前監査・服薬サポート

女子医大通り店
○小林 愛里沙
永田 由佳子

【目的】

現状の制度では、調剤前確認を行い、調剤し、服薬サポートを行うという二度手間になってしま

う。

女子医大通り店は2階建てのため、2階で調剤・監査を行い、1階で別の薬剤師が服薬サポートを行うので、監査者が服薬サポートできない。また、監査者が投薬者に確認してほしい点をメモして付ける手間がかかる。投薬者が改めて薬歴を見て情報をとる時間のロスも問題となっている。

そこで、待ち時間を短縮・有効活用し、患者サービスを充実させる取り組みを行った。

【方法】

受付・入力後、1階の薬剤師が入力チェック、処方監査を行い、薬情を使って内容の確認、服薬サポートを行う。

服薬サポート終了後、薬歴を入力し処方箋と薬情を2階へ上げる。

2階の調剤室では、調剤した薬が正しいか確認して薬袋に入れ、カゴにセットしていく。セット終了後、1階に降りし、患者様と一緒に中身を確認してお渡し、お会計を行う。その際、服薬サポートは行わない。

処方監査者が服薬サポートを行うので、監査者と投薬者が別になる事で発生するロスを無くすことができる。

この方法を行う前後で、待ち時間がどのように変化したか確認するために、調剤前投薬導入前と後で実際にかかった時間の集計を行った。

【結果・考察】

調剤前投薬導入前と比べ、平均待ち時間が2分程度延長したが、以前よりも患者様が話をしてくれるようになった。また、早い段階で疑義に気付くことができ、疑義照会がスムーズになった。一方で、受付から調剤前投薬までに時間がかかると薬ができたと勘違いされてしまう、吸入器の使い方など調剤前の段階では十分に説明できない場合がある等の問題点も挙げられた。調剤前投薬を停滞なくスムーズに行うために、調剤室のパソコンを減らし、投薬カウンターのパソコンを増やすべきと考えた。